

研究者というお仕事とは；地球科学系の研究者を志す 貴方たちへ

○野崎達生^{1,2,3,4}

(¹海洋研究開発機構, ²東大・工, ³神戸大・理, ⁴千葉工大・次世代資源)

研究者とはどのようなお仕事でしょうか。昔は「末は博士か大臣か」という言葉に象徴されるように、博士号を取った研究者は尊敬の眼差しを受けました。しかし、大学院博士課程が数多くの大学に設置され、その後生じたポストク問題に象徴されるように、博士号取得後に安定した研究職を得ることはしばしば簡単ではない“茨の道”であることも事実です。それにも関わらず、なぜ我々は研究者というお仕事に魅力を感じるのでしょうか。

研究者といっても、民間企業の研究者、国公立大学・私立大学の研究者、あるいは国立研究開発法人などの国の研究機関に所属する研究者など様々な立場・選択肢があります。その立場によって職務内容（お仕事）も変わりますが、大学や国の研究機関の研究者は割と自由に物事を考えて目標を設定した研究ができますが、その分多くの責任も自分の肩に降りかかってきます。この自由さ、そして科学の理論の前には皆平等であり立場・年齢に関わらず対等に議論できる、というのが研究者の仕事の大きな魅力だと思います。また、ある物事が自分の作業仮説通りに進んで素晴らしい結果が得られた時の快感、何年にも亘ってずっと考えてきた未知の現象の理由が、ある瞬間に突然「知と知が繋がって理解できた時の快感」は何物にも変えられない醍醐味です。

本ショートコースでは、私が現在所属している国立研究開発法人海洋研究開発機構という会社の紹介、研究者になるまでに学生時代を通じて何を考えて生きてきたか、現在何に興味を持って研究をしているか（これはちょっと真面目な内容を含みます）、これから何を目指しているのか、などの話題について対話形式を混ぜつつ紹介し、地球科学系（特に国立研究開発法人）の研究者のお仕事がどのようなものかについて紹介したいと思います。将来、皆さんが自分の職業を選択する際に少しでも参考になれば幸いです。

Job of the “research scientist”; Lessons to the young researcher who wish to become a research scientist in the field of Earth Science

*T. Nozaki^{1,2,3,4} (¹JAMSTEC, ²Univ. of Tokyo, ³Kobe Univ., ⁴ChibaTach)